

# 羅臼国後展望塔

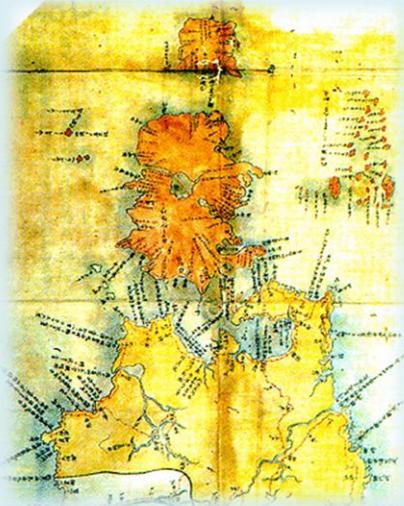


国民の総意で呼び戻そう！  
北方領土！！

独立行政法人 北方領土問題対策協会  
羅 臼 町

# 北方領土の歴史

## <北方領土開拓の歴史>



正保御国絵図

1635年(寛永12年)、北海道を支配していた松前藩は、北海道全島及び千島、樺太を含む蝦夷地方の調査を行いました。1644年(正保元年)の幕命により諸藩から提出された国絵図に基づいて、幕府が作成した日本総図(いわゆる「正保御国絵図」)には、「くなしり、えとほろ、うるふ」などの島名がはっきり掲載されています。

ロシア人が初めて得撫(うるっぷ)島に来て、長期滞在して越年したのは、1766年(昭和3年)ですが、住民の反抗にあって翌年帰国しています。

その後、ロシア人は再々この方面に進出して、住民との間に衝突が絶えない状況でした。千島へのロシアの活発な進出を知った幕府は、みずから北方の島々の経営に本格的に取り組むこととし、1785年(天明5年)及び1791年(寛政3年)に最上徳内らを調査に派遣しました。同人は、国後島から択捉島に渡ってロシアの南下の状況を克明に調査し、さらに得撫島に上陸して同島以北の諸島の情勢も察知しています。

幕府は、国防上、千島、樺太を含む蝦夷地を直轄地として統治することとし、1798年(寛政10年)、大規模な巡察隊を同地方に派遣しました。このとき、近藤重蔵は最上徳内と共に国後島、択捉島を調査し、択捉島に「大日本恵登呂府」の標柱を建てています。翌1799年から1800年にかけて、近藤重蔵は高田屋嘉兵衛らとともに、再び国後島、択捉島に渡り択捉島に本土の行政を移入、郷村制を施き、17か所の漁場を開くとともに幕吏を常駐させました。

また、航路や港の整備などにより、色丹島、国後島、択捉島の本格的開発が始められました。



大日本恵登呂府の標柱

1700年代の後半になると、ロシアの千島列島進出に警戒を深めた幕府は、北方の島々の経営を本格的に取り組むようになり、国後島、択捉島を中心に最上徳内、近藤重蔵らを派遣し実地検査をおこない、択捉島に「大日本恵登呂府」の国土標柱(左の写真)を建てると共に、択捉島及びそれより南の島々に番所を置いて外国人の侵入を防ぎ、これらの島々を統治しました。



最上 徳内



近藤 重蔵

## <条約が語る北方領土>

1855年(安政元年)、伊豆の下田で「日魯通好条約」が結ばれ、初めて平和裏に両国の国境線が択捉島とウルップ島の間決められました。その後、1875年(明治8年)には「樺太千島交換条約」、1905年(明治38年)には「ポーツマス条約」が結ばれるなど北方地域の国境線は変遷を遂げましたが、北方領土は一度も外国の領土になったことはない、日本固有の領土です。

## <国境の取り決め>



### ●日魯通好条約

1855年(安政元年)、伊豆下田において「日魯通好条約」が締結されました。この条約で初めて日口両国間の国境は、択捉島と得撫島の間に決められ、択捉島から南は日本の領土とし、得撫島から北のクリル諸島(千島列島)はロシア領として確認されました。

また、樺太は今までどおり国境を決めず両国民の混住の地と定められました。

### ●樺太千島交換条約

1875年(明治8年)、明治政府は樺太千島交換条約を結び、樺太を放棄する代償としてロシアから千島列島を譲り受けました。この条約では、日本に譲渡される千島列島の名を一つ一つ挙げていますが、列挙されている島は得撫島以北の18の島であって、歯舞群島、色丹島、国後島及び択捉島の北方四島は含まれていません。



### ●ポーツマス条約

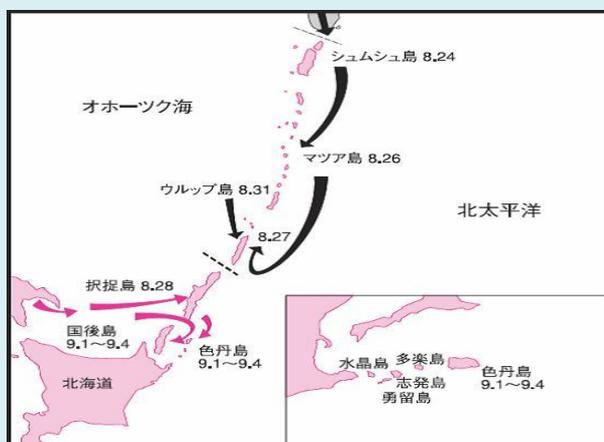
1905年(明治38年)、日露戦争の結果、ポーツマス条約が締結され、北緯50度以南の南樺太が日本の領土となりました。

### ●サン・フランシスコ平和条約

1951年(昭和26年)、日本はサン・フランシスコ平和条約に調印しました。

この結果、日本は、千島列島と北緯50度以南の南樺太の権利、権原及び請求権を放棄しました。しかし、放棄した千島列島に固有の領土である北

## <終戦後の法的占拠のない占拠>



1945年(昭和20年)8月9日、ソ連は1941年に署名され当時有効であった中立条約を無視して対日参戦しました。ソ連軍が千島列島最北端の占守(しゅむしゅ)島に上陸したのは、わが国がポツダム宣言を受諾して連合国に降伏した8月15日から3日後の8月18日でした。その後、ソ連軍は島づたいに南下し、8月31日までに千島列島の南端であるウルップ島まで占領を完了しました。

更にソ連軍の別の部隊が、8月28日に択捉島、9月1日から9月5日までの間に国後島、色丹島及び歯舞群島のすべてを占領してしまいました。終戦時、択捉島以南の四島には、約1万7千人の日本人が居住していました。ソ連軍の占領により、約半数の者は自ら脱出しましたが、それ以外の島民は、1947年(昭和22年)から1948年(昭和23年)に四島から強制退去させられ、サハリンでの抑留生活を経て、函館に送還されました。

その後、これら北方四島は、戦後70年以上が経過した今日もなおロシアの法的根拠のない占領が続いています。



## <根室で立ち上がった北方領土返還運動>



戦後間もなく北方領土返還運動に立ち上がった  
根室住民

マッカーサー元帥への陳情がきっかけとなり、その翌年には、元島民と根室町民を中心に安藤町長を会長とする「北海道附属島嶼復帰懇請委員会」が誕生しました。それ以後、この組織が母体となって北方領土返還運動が進められました。

更に、昭和22年には初めての住民大会となる「北海道附属島嶼復帰懇請根室国民大会」が開催され、この大会で採択された北方領土返還要求の宣言と決議は、連合軍最高司令官や政府に送付されました。

また、昭和40年代後半から47都道府県に次々と設立された県民会議によって、全国へと北方領土返還要求の輪が広がっています。

## <北方領土返還要求運動の取組み>



北方領土の日設定記念全国集会  
(昭和56年 東京)

昭和50年代に入り、領土問題への関心が次第に高まりを見せる中、さらに国民世論を盛り上げて返還運動を発展させようとの思いから、「北方領土の日」を制定しようという運動が活発になりました。そして昭和56年、政府は毎年2月7日を「北方領土の日」として設定し、この日には、各地で大会が開かれ、返還運動を盛り上げる取組みが行われています。



全国から集められた署名簿

北方領土問題への世論喚起と返還運動の普及に大きな役割を果たしてきた署名運動は、昭和40年に始まり、その後、多くの人々の協力で全国に広がり、北方領土返還のシンボリックな活動として着実な歩みを続けています。この全国から集められた署名を携えて、国会に対する請願活動が毎年行われています。

## <羅臼町での領土返還要求運動の取組み>

### ●イベント等における北方領土返還要求署名活動



※町内のお祭りでの署名活動



※東京都内での署名啓発活動



※知床峠での署名啓発活動



※知床峠から望む国後島

各種イベントを通して北方領土の早期返還を訴えています。

### ●元島民による「北方領土の語り部」講話



北方領土学習の一環として、羅臼町を訪れた修学旅行生や北方領土視察団に対し、「北方領土の語り部」講話を行い、若年層世代に対して北方領土問題に対する認識・意識の高揚を図る活動を積極的にを行っています。

## ●ビザなし交流

### ・表敬訪問



### ・ホームビジット



### ・日本文化体験



羅臼町には、毎年たくさんの北方四島在住ロシア人が当町へ訪問し、様々な交流プログラムを通じて、相互理解と友好を深めています。

## ●各大臣等の北方領土視察(羅臼町訪問)



H24・5・1  
石田内閣府副大臣視察来町



H25・11・17  
自民党政務調査会「領土に関する  
特命委員会」視察来町



H27・11・14  
島尻内閣府特命担当大臣(沖縄及び  
北方対策)視察来町



北方領土をとりまく海域は、暖流(日本海流)と寒流(千島海流)が交錯し、魚族がきわめて多く、世界三大漁場の一つとして知られ、島に住んでいた人々は、漁業資源に恵まれた豊かな生活を送っていました。



## 北方領土の島々



水晶島、秋勇留島、勇留島、志発島、多楽島などの島々で構成されており、各島とも緩やかな起伏のある丘陵地で、笹が生い茂り樹木はほとんどありません。現在はロシアの国境警備隊が常駐しているだけです。



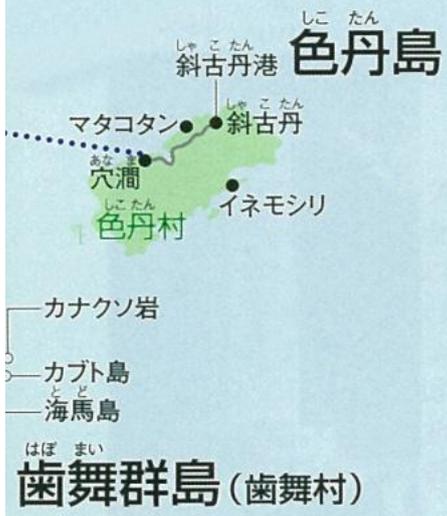
島全体が緑に覆われ、なだらかな丘陵状の景勝地です。現在は、穴澗村、斜古丹村の二つの集落があり、人口は3,195人(2005年1月1日現在。以下同じ)です。島には二つの初等中等学校(11年制)があります。



羅臼町の前浜に広がる島で、典型的な火山島で北方四島では、最高峰の爺爺岳(1,822m)などがあります。現在は、大きく二つ(古釜布、泊)の集落に分かれており、人口は6,697人です。島には、3つの学校、空港(メンデレーエフ空港)がありサハリンまで1時間40分で結ばれています。



北海道、本州、四国、九州を除き日本で一番大きな島です。現在、大きく三つ(紗那、天寧、別飛)の集落に分かれており、人口は6,904人です。島には、4つの学校、天寧には軍の空港があり、民間航空機も発着しておりサハリンまで1時間20分で結ばれています。



# 羅臼国後展望塔

羅臼町の中心市街地にほど近い海拔167mの高台にある羅臼国後展望塔から、僅か25kmしか離れていない国後島の雄大な姿が一望できます。

施設内には、北方領土問題を分かりやすく解説した展示コーナーなど設置しており、北方領土問題の歴史的経緯など学ぶことができます。

また、平成26年度には新たに研修室を増築し、羅臼町の北方領土啓発施設の拠点となっています。



羅臼国後展望塔から望む国後島です。天気の良い日には目の前の国後島の雄大な姿を望めます。

## 館内施設マップ

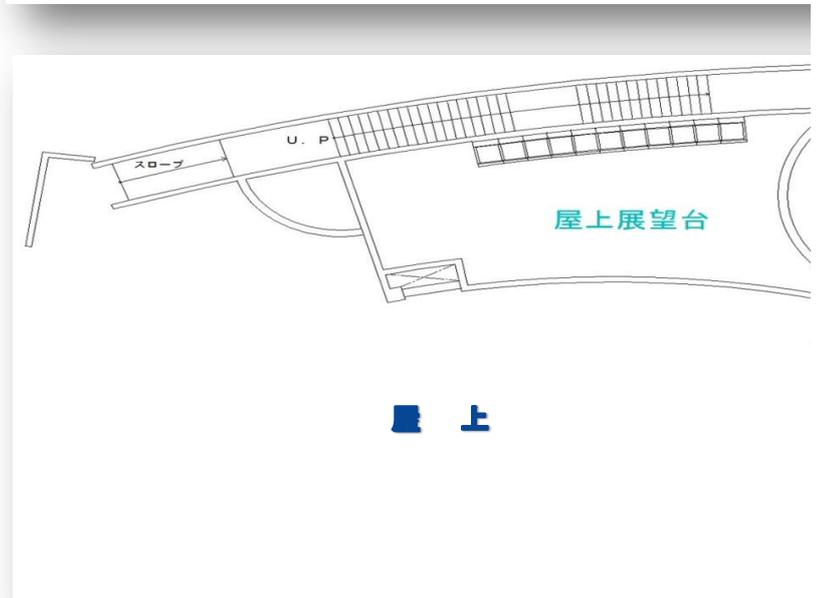
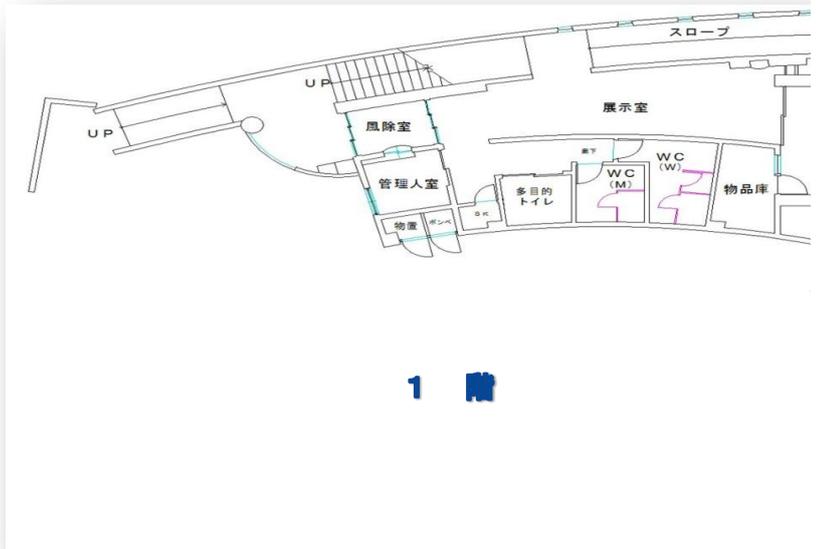
### <展示コーナー>



北方領土問題の歴史的経緯や現在の北方領土の様子を学ぶことができます。



北方領土の現状についてパネルで解説しています。

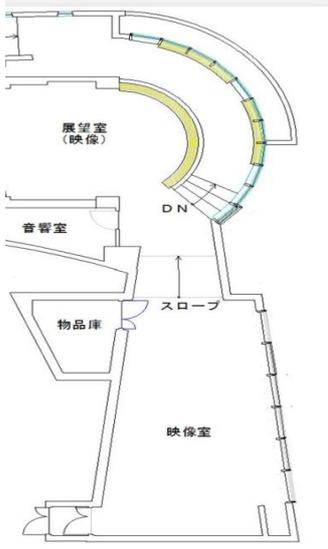




羅臼国後展望塔の屋上から望む国後島からの朝日



冬の国後島と羅臼漁港



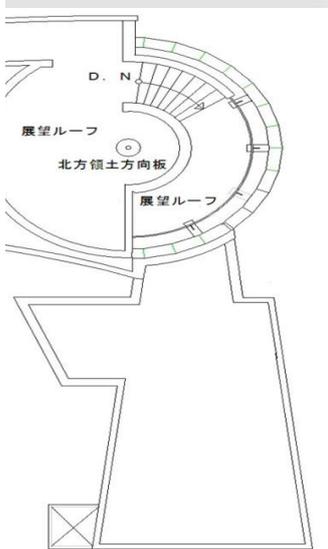
<研修室>



新たに増築した研修室。北方領土学習などの際に使用しています。



研修室での「北方領土の語り部」講話の様子。



<展望室>



室内からでも国後島が望めます。

<展望塔屋上>



屋上からは国後島の雄大な姿が望めます。

# 世界自然遺産のまち 「知床羅臼」

羅臼町は世界自然遺産に指定された知床半島の東半分を占める漁業のまちです。

根室海峡の豊かな海の幸と温泉に恵まれた旅情豊かなまちです。



流水とオジロワシ



羅臼湖



知床峠



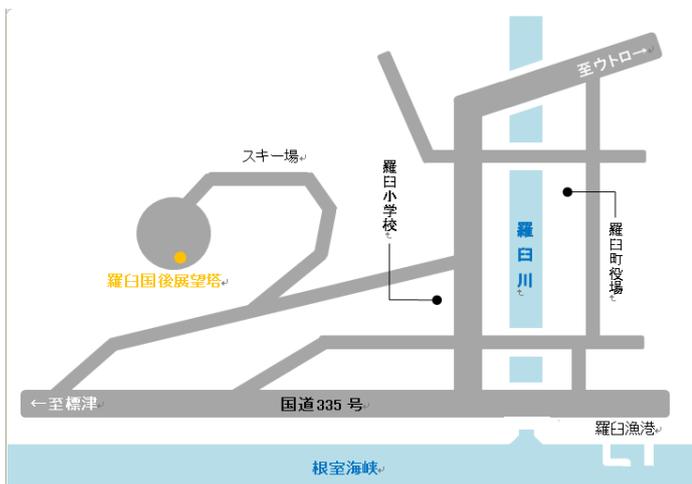
ホエールウォッチング



熊越の滝



熊の湯



〒086-1834 北海道目梨郡羅臼町礼文町32-1  
TEL 0153-87-4560

■開設時間・・・ 9:00～17:00(4月～10月)  
10:00～15:00(11月～1月)  
9:00～16:00(2月～3月)

■休館日・・・ 月曜日・年末年始(12月31日～1月5日)

※月曜日の休館については、5～10月は除きます。

※月曜日が祝日及び振替休日の場合は、翌日となります。

■入館料・・・ 無料

独立行政法人 北方領土問題対策協会

〒110-0014 東京都台東区北上野1-9-12 住友不動産上野ビル9階

TEL:03-3843-3630 FAX:03-3843-3631

ホームページアドレス <http://www.hoppou.go.jp/>

羅臼町

〒086-1892 目梨郡羅臼町栄町100番地83

TEL:0153-87-2114(企画振興課) FAX:0153-87-2916